

別記様式第2号 別添

浜の活力再生プラン

(第2期)

1. 地域水産業再生委員会 (浜プラン ID1122002)

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会坊勢部会
代表者名	部会長 岡田 武夫

再生委員会の 構成員	坊勢漁業協同組合、姫路市、兵庫県中播磨県民センター
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる地域の 範囲及び漁業の種類	兵庫県姫路市家島町坊勢地域 (486名) (平成30年3月末) 磯端漁業(126)・小型底びき網漁業(264)・機船船びき網漁業(58) 中型まき網漁業(4)・のり養殖漁業(30)・カキ養殖漁業(12) 魚類養殖漁業(13)ほか重複有り。()は経営体数
-----------------------	---

2. 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等・坊勢地域の概要

<p>当地区は姫路港の沖合約18キロの家島諸島に属する坊勢島に位置し、島の主産業である漁業は古くから営まれており、好漁場と近隣の大消費地を背景に発展を遂げています。</p> <p>坊勢漁協の正組合員は現在486名で、近年の新規加入者減少により、平均年齢(53.2歳)は上昇傾向にあります。40歳代以下は39.1%と高齢化が進む他地域に比べると、比較的若い年齢層で構成されています。</p> <p>漁業種類は、磯端漁業(刺し網、カゴ網、小型定置網、イサリ等)、小型底びき網、機船船びき網、中型まき網、のり養殖、カキ養殖、魚類養殖等、様々な漁業を展開しており、いずれの漁業も家島諸島周辺の播磨灘北西部海域で操業が行われています。</p> <p>対象魚種については、磯端漁業ではカサゴやメバル、マダコ、サザエ、ナマコ等沿岸性の魚介類、小型底びき網はカレイ類、エビ類、カニ、イカ、タコ等、機船船びき網漁業ではイカナゴ、シラス、中型まき網ではイワシ、アジ、サバが中心となっており、海面養殖ではノリ、カキ、ハマチ、アジ、サバが対象となっています。</p> <p>坊勢漁協の年間漁獲高は、平成30年度は20,653t、6,548百万円で、過去10年間の平均(平均漁獲高17,542t、5,194百万円)と比較して漁獲量、漁獲金額とも大幅に上まわった。漁獲量の主な増加要因は、中型まき網によるカタクチイワシの好漁とカキ養殖の増産、海苔養殖の増産であります。一方で小型底びき網、磯端漁業は漁獲量、漁獲金額とも減少の一途にあります。</p> <p>○漁業経営における問題</p> <p>*魚価：生産量</p> <p>当地区の漁獲物は少量多品目で規格も均一でないため、量販店で扱いにくい魚種が多く、大手量販店の進出や消費者の魚離れにより町の鮮魚店は次々と廃業に追い込まれるとともに</p>

に、産地市場の買い受け人数は減少し続け、総じて価格は安価となってきています。

磯端漁業の魚価は過去10年間（平成20年度～29年度）の平均漁獲量368t 平均漁獲金額252,971千円で、平均魚価は687円/kgとなっていますが、それ以前の10年間（平成16年度～25年度）は、平均漁獲量561t 平均漁獲金額443,387千円で平均魚価は791円/kgと漁獲量は減少、魚価は下落しています。

小型底びき網は過去10年間（平成20年度～29年度）の平均漁獲量2,129t 平均漁獲金額815,157千円であり、平均魚価は383円/kgとなっています。それ以前の10年間（平成10年度～19年度）の平均漁獲量2,741t、平均漁獲金額1,159,230千円で平均魚価は423円/kgと、当地区において比較的安定しているとされてきた磯端漁業、小型底びき網漁業がこの状況となり、先行きが不安視されている状況です。

機船船びき網漁業の魚価は播磨灘東部海域及び大阪湾の好不漁により大きく変動し、不漁の場合は通常価格の5倍から10倍に達することもあり、またシラス漁については塩干卸業者の在庫状況により価格が変動するため、非常に不安定な状況が続いています。

又、近年イカナゴ漁の資源が減少しており、先行きが不安視されています。

中型まき網はイワシ、アジ、サバが漁獲対象となっており、真イワシはほとんど漁獲がない状況が続いていますが、片ロイワシを漁獲して畜養し、鯉一本釣りの撒き餌として一定の需要がありますが、近年鯉漁船も減少傾向にあります。春から夏に漁獲したサバは秋から冬にかけて養殖し「ぼうぜ鯖」ブランドで出荷することで付加価値を向上させ、又、未利用魚であった「ボラ」を利用し卵巣を「カラスミ」の原料として出荷することで、漁獲金額を維持しています。

のり養殖は、水産業強化支援事業・強い水産業強化支援事業等により刈り取り船や大型乾燥機の導入を行い、作業の効率化と省エネ化に取り組みながら、他漁協との入漁協定による張り込み柵数増加により、海中栄養塩の低下による早期色落ち現象に対抗してした結果直近4年間は安定した漁獲量となっております。しかし、海苔の価格形成は、依然として海苔商社の在庫状況により大きく変動し、前年売っていた品質の海苔であっても今年は売れないという状況も珍しくないことから、生産量、価格とも不安定な漁業種類となっています。

カキ養殖は当地の漁場特性として、植物性プランクトンのごく少ない地域であるためカキの身入りが悪く、一時は13経営体が3経営体までに減少しましたが、平成23年度より本土側の好漁場を入漁契約に基づき利用できることとなり、現在は12経営体にまで復活しました。紫外線殺菌等衛生的な生産体制確立に努力していますが、本土側に加工場を持つ6経営体以外は、殻付きカキの一般消費者への販売にハンディキャップを抱えています。カキの価格については、身は大きくなり重量当たりの作業効率は良くなったものの、新規着業が多いためロスも多く、単価的にはやや下降しています。

* 漁場環境

当地区周辺の漁場環境は栄養塩が乏しく、坊勢島漁業集落では漁協と連携のうえ、離島漁業再生支援事業等にて海底耕耘による栄養塩の溶出や底質改善を行い、海底ゴミの持ち帰り事業を実施すると共に、漁業者にとって有害生物であるクラゲの駆除作業や魚礁設置、禁漁区の設定、イカ産卵床等の設置を積極的に実施し、稚魚育成場をフルに活用のうえ繁殖保護に努めています。

漁獲努力量の削減についても、入出港時間や定休日の設定、網の目合い制限等、以前より積極的に取り組んでいます。

近年の温暖化による環境の変化は、アサリ等を食害する有害生物のナルトビエイの増加や漁獲対象資源の減少に対して、少なからず影響を与えていると思われます。

小型底びき網の25年前の主要漁獲物5品目は、シャコ約357t、アナゴ約388t、小エビ約567t、赤シタ約384t、カレイ類約130tとなっています。

磯端漁業ではカサゴ約5トン、メバル約4t、サザエ約9t、マダコ約76t、カワハギ約15tの漁獲がありましたが、平成30年度ではシャコ約3t、アナゴ0.1t、小エビ

約188t、赤シタ約478t、カレイ類約14tと、小型底曳網の主要5品目は赤シタを除いて激減していることが分かります。尚、ハモについては約30tが約153tと増加をみせており、時期はずれに漁獲されることも多くなっています。

磯端漁業においてもマダコ以外は激減しており、代って高級魚であるキジハタが若干の増加を見せています。

*漁業経費

漁業の経費は燃油価格により大きく左右されますが、現在の漁業は、船体はもとより漁具から出荷に至るまで石油製品に支えられており、漁労収入に占める漁労支出の割合は平成22年では64.8%に達しています。

原油価格で言うと、ドバイ原油価格（単位：円／バレル）では、平成5年以降、平成15年まで3,000円／バレル以下で推移しましたが、平成16年以降に上昇し、平成30年には6,712円と約2.2倍まで達しているため、漁業者は漁船の低速走行や船底状態の改善による省燃油活動を実施するほか、諸資材等の経費節減に努めています。

(2) その他の関連する現状等

収入向上対策

魚価の向上や魚食普及を図るため、姫路市の妻鹿漁港にて「姫路とれとれ市場」を整備し、活魚、鮮魚、加工品等を販売、兵庫西農協が運営する直売店との連携、販促活動を行っているほか、学校給食の食材納入にも行えるようになり、少量であるが加工品製造をおこなっています。

また、坊勢島漁業集落では年5回、本土側において「とれとれ祭り」を開催し、農村や都市住民との交流を行っています。

経費節減対策

漁業者は漁船の低速走行及び船底状態の改善による省燃油活動を実施するとともに、こまめな漁具補修作業による漁具資材経費の削減や漁船、機関等の長期使用のため十分な管理を行うとともに、中古船や中古機関、オーバーホール等によりコストの抑制を図るとともに、のり養殖漁業者は協業化による省エネ機器導入：省エネ管の導入等や種網、ロープなどの漁具の十分な管理による経費の削減に努めています。

3. 活性化の取り組み方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁業収入向上対策

- ・ 直接販売
- ・ 水産加工品開発
- ・ 品質向上
- ・ 生産量の増加
- ・ 漁港機能保全（内容）荒天時の的確な対応による効率的な操業の確保
- ・ 新規就業者の確保及びスキルアップ
- ・ 漁業情報の発信、都市住民との交流、漁業見学体験

漁業コスト削減対策

- ・ 省エネ機器の導入
- ・ 燃油消費量を削減
- ・ 漁具購入費用の軽減
- ・ 作業効率向上
- ・ 漁港機能保全（内容）荒天時への対策により燃油削減等コスト削減
- ・ 漁獲共済及び積み立てふらずと漁業経営セーフティネットへの加入促進

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

磯端漁業（うち、刺し網漁業、小型定置網漁業）小型底びき網漁業、機船船びき網漁業は資源管理計画に基づく、漁獲管理を行っています。
 また、のり養殖漁業、魚類養殖漁業は漁場改善計画に基づく管理を行っています。

漁場環境改善のため、坊勢島漁業集落では漁協と連携して、離島漁業再生支援交付金事業等により海底耕耘による沈殿した栄養塩の溶出や底質改善、海底の環境改善のため、ナイロン、空き缶、その他障害物の持ち帰り事業を実施するほか、近年、大量に発生し漁場環境や漁労作業等に弊害をもたらす赤クラゲ、ミズクラゲの駆除や投石魚礁、イカ産卵床、ナマコ床等の積極的な設置を行っています。このほか、兵庫県及び姫路市が実施する大規模、並型魚礁に加え幼稚仔育成場をフルに活用し、マコガレイ、ヒラメ、車エビ、ガザミ、アワビ等の稚魚放流、漁獲努力量削減のため禁漁区の設定、休漁日の設定、目合い制限、出漁時間制限等を実施しています。

(4) 具体的な取り組み内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（2019年度）「所得2%向上」

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ、必要に応じ見直すこととする。

事業名	想定される事業内容
<p>① 漁業収入向上のための取り組み</p>	<p>ア) 漁協は組合員の漁獲物を買取りのうえ、メバル、カサゴ、サザエ（磯端漁業）、エビ、カニ、カレイ類、穴子、ハモ（小型底びき網漁業）、イカナゴ、シラス（機船船びき網漁業）、イワシ、鰯、鯖（中型まき網漁業）、味付け海苔、焼き海苔（のり養殖漁業）、剥きガキ、殻付きガキ（カキ養殖）、鰯、鯖（魚類養殖）等の漁獲物や鮮魚、活魚、塩干加工品等の販売と併せて、水産物の調理、食べ方等を紹介する食堂の経営による、魚食普及やPR活動を実施。漁業者（組合員486名）は活魚出荷等の直接販売に適した形態での漁協に対する出荷数量を増加し、魚価向上と販路拡大により漁業収入が向上。</p> <p>イ) 漁協は、インターネット等を活用し、兵庫県認証食品の「ぼうぜ鯖」「ぼうぜガニ（ガザミ）」「いかなごのくぎ煮」や「干しエビ」「骨切り鰹」「カキ」等、漁協加工品を中心に消費者への直接販売を促進させるため、漁協ホームページを拡充する等のPR活動を強化する。小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、カキ養殖漁業の漁業者は、姫路とれとれ市場のイベントを通じて対象魚種の漁協に対する出荷数量を増加し、販売量の増加と単価の向上等により漁業収入が向上。</p> <p>ウ) 小型底びき網で漁獲される小エビ、鰹、イボダイ等、中型まき網で漁獲されるイワシ、鰯等の多獲魚やアカモク等の未利用、ヒジキなどの低利用魚海藻類について、漁協及び漁業者（小型底びき網、中型まき網）が共同で加工品開発（イワシ・鰯・イボダイの塩干品、骨きり鰹、海藻類の乾燥品、からすみ、佃煮類等）を行い、直販施設等で販売し、販売量の増加と単価の向上等による漁業収入の向上。</p>

	<p>エ) のり養殖業者の内3協業体が大型乾燥機付属設備を導入することにより、単位時間あたりの生産枚数の増加と品質向上を行い、生産量・生産金額の増加による漁業収入の向上</p> <p>オ) のり養殖業者の内4協業体が、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減と生産枚数の増加。</p> <p>カ) のり養殖業者は、漁協と連携のうえ、健全な種網の確保と漁場での十分な管理を行うとともに、兵庫県水産技術センターの栄養塩やプランクトンの情報を注視しながら、色落ち緩和策として小型底びき網漁業、機船船びき網漁業の協力のもと海底耕耘事業による海底の底質改善と栄養塩溶出のための作業を実施することにより、海苔の品質向上による漁業収入の向上。</p> <p>キ) 各漁業者は漁協とともに、姫路市が行う漁港整備計画の策定に参画することにより、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大。</p> <p>ク) 漁協は、漁業後継者の育成（目標：毎年度5名）・労働力の確保及び新規就業者のスキルアップを図るため漁業者の小型船舶操縦士免許取得等の講習会参加を支援</p> <p>ケ) 姫路市が整備した船舶離発着施設（旅客ターミナル）を活用し、坊勢漁協及び漁業者（組合員486名）が施設内外で漁業の情報発信（ポスター掲示等による地元魚介類や島内のPR）を実施。都市住民との交流を促進し、地元産魚介類の知名度と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>コ) 漁協は、漁業見学船を活用することで、漁業の島ならではの「体験プログラム」と「姫路とれとれ市場」の地魚を中心としたBBQを組み合わせた「漁業体験ツアー」や、県立いえしま自然体験センターと連携する。都市部からの交流人口を促進し、地元産魚介類の消費量の拡大と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>タ) 適切な資源管理と収益性の向上を両立させるため、5隻の漁船をリース方式により導入する。</p>
<p>② コスト削減のための取り組み</p>	<p>ア) 漁業者は漁船エンジンを国のリース事業等を活用して、現在よりも5%以上の省エネ効果が認められる機器に交換する。 当該漁業者（対象漁業者：磯端漁業126名・小型底びき網漁業264名・機船船びき網漁業58統）のうち、当年度30台の換装による漁労コスト削減。</p> <p>イ) 前年の取組結果を踏まえ、全漁船が減速航行と船底状態改善（漁業者が自ら所有している漁船を上架して、船体、舵、プロペラ等</p>

	<p>を洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施)により燃油使用量を削減する。(参加隻数:磯端漁業76隻・小型底びき網漁業263隻・機船船びき網漁業170隻・のり養殖漁業185隻・中型まき網漁業46隻:計740隻)</p> <p>ウ) 漁業者は、雨天作業場を利用し、漁具のこまめな補修と、漁具倉庫等を利用した、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。(磯端漁業、小型底びき網漁業・機船船びき網漁業)</p> <p>エ) 漁協が整備した集荷選別所を活用し、乾のりの集荷、選別、出荷作業効率の向上によるのり養殖漁業者30経営体の出荷経費を削減する。</p> <p>オ) のり養殖業者の内4協業体が、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減。</p> <p>カ) 姫路市が行う漁港整備により、荒天時の漁業者(組合員486名)による地元漁船(登録動力漁船数876隻)の他港避難回避を通じた燃油代削減。</p> <p>キ) 漁協は、漁獲共済及び積み立てぷらすとセーフティーネットへの加入を促進し、不漁時の収入安定化と燃油価格高騰時の漁業経費を軽減。</p>
<p>③ 活用する支援措置等</p>	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業(国)①-タ ②-ア) 離島漁業再生支援交付金事業(国・県・市)①-ウ) ①-カ) 水産業強化支援事業(国)①-エ) ①-オ) ②-オ) 水産基盤整備事業(国)①-キ) ②-カ) 新規就業者確保事業(国)①-ク 漁業収入安定対策事業(国)②-キ 漁業経営セーフティーネット構築事業(国)②-キ) 外国人材受入れ環境整備事業(国)①-チ)</p>

2年目(2020年度)「所得4%向上」

事業名	想定される事業内容
<p>① 漁業収入向上のための取り組み</p>	<p>ア) 漁協は組合員の漁獲物を買取りのうえ、メバル、カサゴ、サザエ(磯端漁業)、エビ、カニ、カレイ類、穴子、ハモ(小型底びき網漁業)、イカナゴ、シラス(機船船びき網漁業)、イワシ、鰯、鯖(中型まき網漁業)、味付け海苔、焼き海苔(のり養殖漁業)、剥きガキ、殻付きガキ(カキ養殖)、鰯、鯖(魚類養殖)等の漁獲物や鮮魚、活魚、塩干加工品等の販売と併せて、水産物の調理、食べ方等を紹介する食堂の経営による、魚食普及やPR活動を実施。漁業者(組合員486名)は活魚出荷等の直接販売に適した形態での漁協に対する出荷数量を増加し、魚価向上と販路拡大により漁業収入が向上。</p>

イ) 漁協は、インターネット等を活用し、兵庫県認証食品の「ぼうぜ鯖」「ぼうぜガニ(ガザミ)」「いかなごのくぎ煮」や「干しエビ」「骨切り鰹」「カキ」等、漁協加工品を中心に消費者への直接販売を促進させるため、漁協ホームページを拡充する等のPR活動を強化する。小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、カキ養殖漁業の漁業者は、姫路とれとれ市場のイベントを通じて対象魚種の漁協に対する出荷数量を増加し、販売量の増加と単価の向上等により漁業収入が向上。

ウ) 小型底びき網で漁獲される小エビ、鰹、イボダイ等、中型まき網で漁獲されるイワシ、鰹等の多獲魚やアカモク等の未利用、ヒジキなどの低利用魚海藻類について、漁協及び漁業者(小型底びき網、中型まき網)が共同で加工品開発(イワシ・鰹・イボダイの塩干品、骨きり鰹、海藻類の乾燥品、からすみ、佃煮類等)を行い、直販施設等で販売し、販売量の増加と単価の向上等による漁業収入の向上。

エ) のり養殖業者の協業体は大型乾燥機や付属設備を導入することにより、単位時間あたりの生産枚数の増加と品質向上(異物混入等によるロス率の低減等)を行い、生産量・生産金額の増加による漁業収入の向上

オ) のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減と生産枚数の増加。

カ) のり養殖業者は、漁協と連携のうえ、健全な種網の確保と漁場での十分な管理を行うとともに、兵庫県水産技術センターの栄養塩やプランクトンの情報を注視しながら、色落ち緩和策として小型底びき網漁業、機船船びき網漁業の協力のもと海底耕耘事業による海底の底質改善と栄養塩溶出のための作業を実施することにより、海苔の品質向上による漁業収入の向上。

キ) 各漁業者は漁協とともに、姫路市が行う漁港整備計画の策定に参画することにより、荒天時の漁業者(組合員486名)による地元漁船(登録動力漁船数876隻)の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大。

ク) 漁協は、漁業後継者の育成(目標:毎年度5名)・労働力の確保及び新規就業者のスキルアップを図るため漁業者の小型船舶操縦士免許取得等の講習会参加を支援

ケ) 姫路市が整備した船舶離発着施設(旅客ターミナル)を活用し、坊勢漁協及び漁業者(組合員486名)が施設内外で漁業の情報発信(ポスター掲示等による地元魚介類や島内のPR)を実施。都市住民との交流を促進し、地元産魚介類の知名度と単価の向上による漁業収入の向上。

	<p>コ) 漁協は、漁業見学船を活用することで、漁業の島ならではの「体験プログラム」と「姫路とれとれ市場」の地魚を中心としたBBQを組み合わせた「漁業体験ツアー」や、県立いえしま自然体験センターと連携する。都市部からの交流人口を促進し、地元産魚介類の消費量の拡大と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>タ) 適切な資源管理と収益性の向上を両立させるため、5隻の漁船をリース方式により導入する。</p>
<p>② コスト削減のための取り組み</p>	<p>ア) 漁業者は漁船エンジンを国のリース事業等を活用して、現在よりも5%以上の省エネ効果が認められる機器に交換する。 当該漁業者（対象漁業者：磯端漁業126名・小型底びき網漁業264名・機船船びき網漁業58統）のうち、当年度30台の換装による漁労コスト削減。</p> <p>イ) 前年の取組結果を踏まえ、全漁船が減速航行と船底状態改善（漁業者が自ら所有している漁船を上架して、船体、舵、プロペラ等を洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施）により燃油使用量を削減する。（参加隻数：磯端漁業76隻・小型底びき網漁業263隻・機船船びき網漁業170隻・のり養殖漁業185隻・中型まき網漁業46隻：計740隻）</p> <p>ウ) 漁業者は、雨天作業場を利用し、漁具のこまめな補修と、漁具倉庫等を利用した、漁網網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。（磯端漁業、小型底びき網漁業・機船船びき網漁業）</p> <p>エ) 漁協が整備した集荷選別所を活用し、乾のりの集荷、選別、出荷作業効率の向上によるのり養殖漁業者30経営体の出荷経費を削減する。</p> <p>オ) のり養殖業者の内4協業体が、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減。</p> <p>カ) 姫路市が行う漁港整備により、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた燃油代削減。</p> <p>キ) 漁協は、漁獲共済及び積み立てぷらすとセーフティーネットへの加入を促進し、不漁時の収入安定化と燃油価格高騰時の漁業経費を軽減。</p>

③ 活用する支援措置等	水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）①ータ ②ーア） 離島漁業再生支援交付金事業（国・県・市）①ーウ）①ーカ） 水産業強化支援事業（国）①ーエ）①ーオ）②ーオ） 水産基盤整備事業（国）①ーキ）②ーカ） 新規就業者確保事業（国）①ーク 漁業収入安定対策事業（国）②ーキ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）②ーキ） 外国人材受入れ環境整備事業（国）①ーチ）
-------------	--

3年目（2021年度）「所得6%向上」

事業名	想定される事業内容
① 漁業収入向上のための取り組み	<p>ア) 漁協は組合員の漁獲物を買取りのうえ、メバル、カサゴ、サザエ（磯端漁業）、エビ、カニ、カレイ類、穴子、ハモ（小型底びき網漁業）、イカナゴ、シラス（機船船びき網漁業）、イワシ、鰯、鯖（中型まき網漁業）、味付け海苔、焼き海苔（のり養殖漁業）、剥きガキ、殻付きガキ（カキ養殖）、鰯、鯖（魚類養殖）等の漁獲物や鮮魚、活魚、塩干加工品等の販売と併せて、水産物の調理、食べ方等を紹介する食堂の経営による、魚食普及やPR活動を実施。漁業者（組合員486名）は活魚出荷等の直接販売に適した形態での漁協に対する出荷数量を増加し、魚価向上と販路拡大により漁業収入が向上。</p> <p>イ) 漁協は、インターネット等を活用し、兵庫県認証食品の「ぼうぜ鯖」「ぼうぜガニ（ガザミ）」「いかなごのくぎ煮」や「干しエビ」「骨切り鰹」「カキ」等、漁協加工品を中心に消費者への直接販売を促進させるため、漁協ホームページを拡充する等のPR活動を強化する。小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、カキ養殖漁業の漁業者は、姫路とれとれ市場のイベントを通じて対象魚種の漁協に対する出荷数量を増加し、販売量の増加と単価の向上等により漁業収入が向上。</p> <p>ウ) 小型底びき網で漁獲される小エビ、鰹、イボダイ等、中型まき網で漁獲されるイワシ、鰯等の多獲魚やアカモク等の未利用、ヒジキなどの低利用魚海藻類について、漁協及び漁業者（小型底びき網、中型まき網）が共同で加工品開発（イワシ・鰯・イボダイの塩干品、骨きり鰹、海藻類の乾燥品、からすみ、佃煮類等）を行い、直販施設等で販売し、販売量の増加と単価の向上等による漁業収入の向上。</p> <p>エ) のり養殖業者の協業体は大型乾燥機や付属設備を導入することにより、単位時間あたりの生産枚数の増加と品質向上（異物混入等によるロス率の低減等）を行い、生産量・生産金額の増加による漁業収入の向上</p> <p>オ) のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減と生産枚数の増加。</p>

	<p>カ) のり養殖業者は、漁協と連携のうえ、健全な種網の確保と漁場での十分な管理を行うとともに、兵庫県水産技術センターの栄養塩やプランクトンの情報を注視しながら、色落ち緩和策として小型底びき網漁業、機船船びき網漁業の協力のもと海底耕耘事業による海底の底質改善と栄養塩溶出のための作業を実施することにより、海苔の品質向上による漁業収入の向上。</p> <p>キ) 各漁業者は漁協とともに、姫路市が行う漁港整備計画の策定に参画することにより、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大。</p> <p>ク) 漁協は、漁業後継者の育成（目標：毎年度5名）・労働力の確保及び新規就業者のスキルアップを図るため漁業者の小型船舶操縦士免許取得等の講習会参加を支援</p> <p>ケ) 姫路市が整備した船舶離発着施設（旅客ターミナル）を活用し、坊勢漁協及び漁業者（組合員486名）が施設内外で漁業の情報発信（ポスター掲示等による地元魚介類や島内のPR）を実施。都市住民との交流を促進し、地元産魚介類の知名度と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>コ) 漁協は、漁業見学船を活用することで、漁業の島ならではの「体験プログラム」と「姫路とれとれ市場」の地魚を中心としたBBQを組み合わせた「漁業体験ツアー」や、県立いえしま自然体験センターと連携する。都市部からの交流人口を促進し、地元産魚介類の消費量の拡大と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>タ) 適切な資源管理と収益性の向上を両立させるため、5隻の漁船をリース方式により導入する。</p>
<p>② コスト削減のための取り組み</p>	<p>ア) 漁業者は漁船エンジンを国のリース事業等を活用して、現在よりも5%以上の省エネ効果が認められる機器に交換する。 当該漁業者（対象漁業者：磯端漁業126名・小型底びき網漁業264名・機船船びき網漁業58統）のうち、当年度30台の換装による漁労コスト削減。</p> <p>イ) 前年の取組結果を踏まえ、全漁船が減速航行と船底状態改善（漁業者が自ら所有している漁船を上架して、船体、舵、プロペラ等を洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施）により燃油使用量を削減する。（参加隻数：磯端漁業76隻・小型底びき網漁業263隻・機船船びき網漁業170隻・のり養殖漁業185隻・中型まき網漁業46隻：計740隻）</p> <p>ウ) 漁業者は、雨天作業場を利用し、漁具のこまめな補修と、漁具倉庫等を利用した、漁網網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。（磯端漁業、小型底びき網漁業</p>

	<p>・機船船びき網漁業)</p> <p>エ)漁協が整備した集荷選別所を活用し、乾のりの集荷、選別、出荷作業効率の向上によるのり養殖漁業者30経営体の出荷経費を削減する。</p> <p>オ)のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減。</p> <p>カ)姫路市が行う漁港整備により、荒天時の漁業者(組合員486名)による地元漁船(登録動力漁船数876隻)の他港避難回避を通じた燃油代削減。</p> <p>キ)漁協は、漁獲共済及び積み立てぷらすとセーフティーネットへの加入を促進し、不漁時の収入安定化と燃油価格高騰時の漁業経費を軽減。</p>
<p>③ 活用する支援措置等</p>	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業(国)①-タ ②-ア)</p> <p>離島漁業再生支援交付金事業(国・県・市)①-ウ)①-カ)</p> <p>水産業強化支援事業(国)①-エ)①-オ)②-オ)</p> <p>水産基盤整備事業(国)①-キ)②-カ)</p> <p>新規就業者確保事業(国)①-ク)</p> <p>漁業収入安定対策事業(国)②-キ)</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業(国)②-キ)</p> <p>外国人材受入れ環境整備事業(国)①-チ)</p>

4年目(2022年度)「所得8%向上」

事業名	想定される事業内容
<p>① 漁業収入向上のための取り組み</p>	<p>ア)漁協は組合員の漁獲物を買取りのうえ、メバル、カサゴ、サザエ(磯端漁業)、エビ、カニ、カレイ類、穴子、ハモ(小型底びき網漁業)、イカナゴ、シラス(機船船びき網漁業)、イワシ、鰯、鯖(中型まき網漁業)、味付け海苔、焼き海苔(のり養殖漁業)、剥きガキ、殻付きガキ(カキ養殖)、鰯、鯖(魚類養殖)等の漁獲物や鮮魚、活魚、塩干加工品等の販売と併せて、水産物の調理、食べ方等を紹介する食堂の経営による、魚食普及やPR活動を実施。漁業者(組合員486名)は活魚出荷等の直接販売に適した形態での漁協に対する出荷数量を増加し、魚価向上と販路拡大により漁業収入が向上。</p> <p>イ)漁協は、インターネット等を活用し、兵庫県認証食品の「ぼうぜ鯖」「ぼうぜガニ(ガザミ)」「いかなごのくぎ煮」や「干しエビ」「骨切り鰻」「カキ」等、漁協加工品を中心に消費者への直接販売を促進させるため、漁協ホームページを拡充する等のPR活動を強化する。小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、カキ養殖漁業の漁業者は、姫路とれとれ市場のイベントを通じて対象魚種の漁協に対する出荷数量を増加し、販売量の増加と単価の向</p>

	<p>上等により漁業収入が向上。</p> <p>ウ) 小型底びき網で漁獲される小エビ、鱧、イボダイ等、中型まき網で漁獲されるイワシ、鰯等の多獲魚やアカモク等の未利用、ヒジキなどの低利用魚海藻類について、漁協及び漁業者（小型底びき網、中型まき網）が共同で加工品開発（イワシ・鰯・イボダイの塩干品、骨きり鱧、海藻類の乾燥品、からすみ、佃煮類等）を行い、直販施設等で販売し、販売量の増加と単価の向上等による漁業収入の向上。</p> <p>エ) のり養殖業者の協業体は大型乾燥機や付属設備を導入することにより、単位時間あたりの生産枚数の増加と品質向上（異物混入等によるロス率の低減等）を行い、生産量・生産金額の増加による漁業収入の向上</p> <p>オ) のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減と生産枚数の増加。</p> <p>カ) のり養殖業者は、漁協と連携のうえ、健全な種網の確保と漁場での十分な管理を行うとともに、兵庫県水産技術センターの栄養塩やプランクトンの情報を注視しながら、色落ち緩和策として小型底びき網漁業、機船船びき網漁業の協力のもと海底耕耘事業による海底の底質改善と栄養塩溶出のための作業を実施することにより、海苔の品質向上による漁業収入の向上。</p> <p>キ) 各漁業者は漁協とともに、姫路市が行う漁港整備計画の策定に参画することにより、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大。</p> <p>ク) 漁協は、漁業後継者の育成（目標：毎年度5名）・労働力の確保及び新規就業者のスキルアップを図るため漁業者の小型船舶操縦士免許取得等の講習会参加を支援</p> <p>ケ) 姫路市が整備した船舶離発着施設（旅客ターミナル）を活用し、坊勢漁協及び漁業者（組合員486名）が施設内外で漁業の情報発信（ポスター掲示等による地元魚介類や島内のPR）を実施。都市住民との交流を促進し、地元産魚介類の知名度と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>コ) 漁協は、漁業見学船を活用することで、漁業の島ならではの「体験プログラム」と「姫路とれとれ市場」の地魚を中心としたBBQを組み合わせた「漁業体験ツアー」や、県立いえしま自然体験センターと連携する。都市部からの交流人口を促進し、地元産魚介類の消費量の拡大と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>タ) 適切な資源管理と収益性の向上を両立させるため、5隻の漁船をリース方式により導入する。</p>
--	--

<p>② コスト削減のための取り組み</p>	<p>ア) 漁業者は漁船エンジンを国のリース事業等を活用して、現在よりも5%以上の省エネ効果が認められる機器に交換する。 当該漁業者（対象漁業者：磯端漁業126名・小型底びき網漁業264名・機船船びき網漁業58統）のうち、当年度30台の換装による漁労コスト削減。</p> <p>イ) 前年の取組結果を踏まえ、全漁船が減速航行と船底状態改善（漁業者が自ら所有している漁船を上架して、船体、舵、プロペラ等を洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施）により燃油使用量を削減する。（参加隻数：磯端漁業76隻・小型底びき網漁業263隻・機船船びき網漁業170隻・のり養殖漁業185隻・中型まき網漁業46隻：計740隻）</p> <p>ウ) 漁業者は、雨天作業場を利用し、漁具のこまめな補修と、漁具倉庫等を利用した、漁網網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。（磯端漁業、小型底びき網漁業・機船船びき網漁業）</p> <p>エ) 漁協が整備した集荷選別所を活用し、乾のりの集荷、選別、出荷作業効率の向上によるのり養殖漁業者30経営体の出荷経費を削減する。</p> <p>オ) のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減。</p> <p>カ) 姫路市が行う漁港整備により、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた燃油代削減。</p> <p>キ) 漁協は、漁獲共済及び積み立てぷらすとセーフティネットへの加入を促進し、不漁時の収入安定化と燃油価格高騰時の漁業経費を軽減。</p>

③ 活用する支援措置等	水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）①ータ ②ーア） 離島漁業再生支援交付金事業（国・県・市）①ーウ）①ーカ） 水産業強化支援事業（国）①ーエ）①ーオ）②ーオ） 水産基盤整備事業（国）①ーキ）②ーカ） 新規就業者確保事業（国）①ーク 漁業収入安定対策事業（国）②ーキ 漁業経営セーフティーネット構築事業（国）②ーキ） 外国人材受入れ環境整備事業（国）①ーチ）
-------------	---

5年目（2023年度）「所得10%向上」

事業名	想定される事業内容
① 漁業収入向上のための取り組み	<p>ア) 漁協は組合員の漁獲物を買取りのうえ、メバル、カサゴ、サザエ（磯端漁業）、エビ、カニ、カレイ類、穴子、ハモ（小型底びき網漁業）、イカナゴ、シラス（機船船びき網漁業）、イワシ、鰯、鯖（中型まき網漁業）、味付け海苔、焼き海苔（のり養殖漁業）、剥きガキ、殻付きガキ（カキ養殖）、鰯、鯖（魚類養殖）等の漁獲物や鮮魚、活魚、塩干加工品等の販売と併せて、水産物の調理、食べ方等を紹介する食堂の経営による、魚食普及やPR活動を実施。漁業者（組合員486名）は活魚出荷等の直接販売に適した形態での漁協に対する出荷数量を増加し、魚価向上と販路拡大により漁業収入が向上。</p> <p>イ) 漁協は、インターネット等を活用し、兵庫県認証食品の「ぼうぜ鯖」「ぼうぜガニ（ガザミ）」「いかなごのくぎ煮」や「干しエビ」「骨切り鰹」「カキ」等、漁協加工品を中心に消費者への直接販売を促進させるため、漁協ホームページを拡充する等のPR活動を強化する。小型底びき網漁業、機船船びき網漁業、カキ養殖漁業の漁業者は、姫路とれとれ市場のイベントを通じて対象魚種の漁協に対する出荷数量を増加し、販売量の増加と単価の向上等により漁業収入が向上。</p> <p>ウ) 小型底びき網で漁獲される小エビ、鰹、イボダイ等、中型まき網で漁獲されるイワシ、鰯等の多獲魚やアカモク等の未利用、ヒジキなどの低利用魚海藻類について、漁協及び漁業者（小型底びき網、中型まき網）が共同で加工品開発（イワシ・鰯・イボダイの塩干品、骨きり鰹、海藻類の乾燥品、からすみ、佃煮類等）を行い、直販施設等で販売し、販売量の増加と単価の向上等による漁業収入の向上。</p> <p>エ) のり養殖業者の協業体は大型乾燥機や付属設備を導入することにより、単位時間あたりの生産枚数の増加と品質向上（異物混入等によるロス率の低減等）を行い、生産量・生産金額の増加による漁業収入の向上</p> <p>オ) のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減と生産枚数の増加。</p>

	<p>カ) のり養殖業者は、漁協と連携のうえ、健全な種網の確保と漁場での十分な管理を行うとともに、兵庫県水産技術センターの栄養塩やプランクトンの情報を注視しながら、色落ち緩和策として小型底びき網漁業、機船船びき網漁業の協力のもと海底耕耘事業による海底の底質改善と栄養塩溶出のための作業を実施することにより、海苔の品質向上による漁業収入の向上。</p> <p>キ) 各漁業者は漁協とともに、姫路市が行う漁港整備計画の策定に参画することにより、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大。</p> <p>ク) 漁協は、漁業後継者の育成（目標：毎年度5名）・労働力の確保及び新規就業者のスキルアップを図るため漁業者の小型船舶操縦士免許取得等の講習会参加を支援</p> <p>ケ) 姫路市が整備した船舶離発着施設（旅客ターミナル）を活用し、坊勢漁協及び漁業者（組合員486名）が施設内外で漁業の情報発信（ポスター掲示等による地元魚介類や島内のPR）を実施。都市住民との交流を促進し、地元産魚介類の知名度と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>コ) 漁協は、漁業見学船を活用することで、漁業の島ならではの「体験プログラム」と「姫路とれとれ市場」の地魚を中心としたBBQを組み合わせた「漁業体験ツアー」や、県立いえしま自然体験センターと連携する。都市部からの交流人口を促進し、地元産魚介類の消費量の拡大と単価の向上による漁業収入の向上。</p> <p>タ) 適切な資源管理と収益性の向上を両立させるため、5隻の漁船をリース方式により導入する。</p>
<p>② コスト削減のための取り組み</p>	<p>ア) 漁業者は漁船エンジンを国のリース事業等を活用して、現在よりも5%以上の省エネ効果が認められる機器に交換する。 当該漁業者（対象漁業者：磯端漁業126名・小型底びき網漁業264名・機船船びき網漁業58統）のうち、当年度30台の換装による漁労コスト削減。</p> <p>イ) 前年の取組結果を踏まえ、全漁船が減速航行と船底状態改善（漁業者が自ら所有している漁船を上架して、船体、舵、プロペラ等を洗浄・研磨し、付着生物防止処理を実施）により燃油使用量を削減する。（参加隻数：磯端漁業76隻・小型底びき網漁業263隻・機船船びき網漁業170隻・のり養殖漁業185隻・中型まき網漁業46隻：計740隻）</p> <p>ウ) 漁業者は、雨天作業場を利用し、漁具のこまめな補修と、漁具倉庫等を利用した、漁網網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。（磯端漁業、小型底びき網漁業・機船船びき網漁業）</p>

	<p>エ)漁協が整備した集荷選別所を活用し、乾のりの集荷、選別、出荷作業効率の向上によるのり養殖漁業者30経営体の出荷経費を削減する。</p> <p>オ)のり養殖業者の協業体は、高性能海苔刈り取り船を導入することにより、作業効率の向上による人件費の削減。</p> <p>カ)姫路市が行う漁港整備により、荒天時の漁業者（組合員486名）による地元漁船（登録動力漁船数876隻）の他港避難回避を通じた燃油代削減。</p> <p>キ)漁協は、漁獲共済及び積み立てぷらすとセーフティーネットへの加入を促進し、不漁時の収入安定化と燃油価格高騰時の漁業経費を軽減。</p>
③ 活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）①ータ ②ーア） 離島漁業再生支援交付金事業（国・県・市）①ーウ）①ーカ） 水産業強化支援事業（国）①ーエ）①ーオ）②ーオ） 水産基盤整備事業（国）①ーキ）②ーカ） 新規就業者確保事業（国）①ーク 漁業収入安定対策事業（国）②ーキ 漁業経営セーフティーネット構築事業（国）②ーキ） 外国人材受入れ環境整備事業（国）①ーチ）</p>

(4) 関係機関との連携

取り組みの効果が十分に発現されるよう、行政（兵庫県、姫路市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（坊勢漁業協同組合）との連携を強固にするとともに、県内外の販売業者等とも連携を図る。

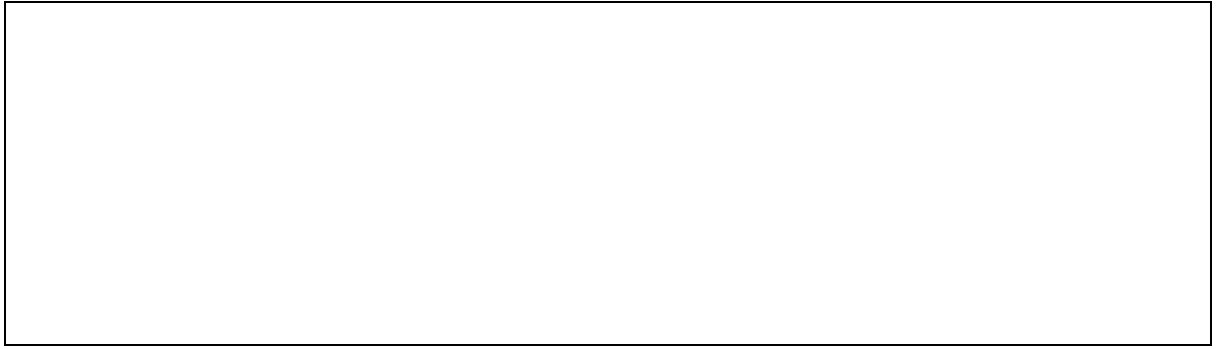
また、根拠地漁港及び陸揚げ漁港における水産基盤整備事業、海岸保全施設整備事業及び漁業集落環境整備事業の計画策定及び事業実施に協力し、漁港の維持管理を推進することをもって漁家資産及び住民の生命財産を守ることに協力する。

4. 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	2018年度 : 漁業所得 千円
	目標年	2023年度 : 漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性



(3) 所得目標以外の成果目標

姫路とれとれ市場の来場者数の増加	基準年	平成30年度 : 来客数	445,078人
	目標年	平成35年度 : 来客数	450,078人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

基準年の来場者数は、姫路とれとれ市場がオープンした平成年28年度から平成29年度の来場者数の平均した数値です。

目標年の来場者はプラン期間中に活性化の取り組みを実践することにより、姫路とれとれ市場の来場者数の増加見込みを算定しています。

5. 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容およびプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業成長産業化沿岸地域創出事業(国)	漁船・機器をリース方式により導入する
離島漁業再生支援交付金事業(国・県・市)	坊勢島漁業集落による魚礁設置、稚魚放流、海底耕耘、クラゲ駆除等さまざまな取り組みによる漁業収入の増加
水産業強化支援事業(国)	のり養殖協業体の大型乾燥機・付属機器の導入、品質向上と増産による漁業収入増加
水産基盤整備事業(国)	のり養殖協業体の高性能海苔刈り取り船導入、作業効率向上による漁業経費削減
水産基盤整備事業(国)	プランの推進に必要な共同利用施設の整備
水産基盤整備事業(国)	漁港整備による荒天時の他港避難回避を通じた休漁時間短縮に伴う漁獲量の増大及び燃油代の削減
水産基盤整備事業(国)	漁港施設の長寿命化計画に基づき漁港施設の補修による漁家財産の保全
水産基盤整備事業(国)	安全・安心な水産物の品質確保や流通機能の強化に資する高度衛生管理型荷さばき所、岸壁等の整備
海岸保全施設整備事業(国)	海岸保全施設の長寿命化計画に基づき老朽化対策の計画的推進による漁家及び住民の生命財産の保護
漁業集落環境整備事業(国)	漁業集落排水施設の機能保全対策を計画的に推進。
新規漁業就業者確保事業(国)	後継者の確保、養成 新規就業者の免許取得等漁業者のスキルアップの支援
漁業収入安定対策事業(国)	漁業共済・積立ぷらすにより、収入が減少した場合の減収担保
漁業経営セーフティーネット構築事業(国)	燃油価格や配合飼料価格が上昇した時に備える